

ふじみ市民学コース 行政と市民生活

富士見市のまちづくり現状と課題

第5回

「第一期基本計画にみる生涯学習 生きがいとコミュニティの充実」

講師 玉田 瑞穂氏
富塚 一資氏

日 時 2022年10月22日（土）10:00～12:00
場 所 鶴瀬公民館 第三集会室
講 師 玉田瑞穂氏（生涯学習課課長）
富塚一資氏（水谷東公民館長）
受講者数 16人

第5回講座は今年度のテーマである「前年度スタートした「第6次基本構想と第一次基本計画」に基づく「富士見市のまちづくり」の一環として

第一次基本計画に見る生涯学習—生きがいとコミュニティーの充実—
をテーマに行われた。

講師として生涯学習課課長の玉田瑞穂氏及び長年生涯学習に関わってこられた現在は水谷東公民館長の富塚一資氏の2人で行われた。



講師 玉田氏



講師 富塚氏

玉田氏より

1. 総合計画の概要と策定のポイントとしての基本構想の計画内容、実施計画について
2. 第6次基本構想に「掲げられている「充実した日々」について
3. 第1次基本計画の30の分野別計画の一覧と第10分野にある「生涯学習」について
4. 第3次富士見市の生涯学習推進基本計画（令和3年度～令和7年度）

計画の位置づけと目標、理念、施策の体型、成果目標、推進体制等についての講義が行われた。

続いて富塚氏より

「地域に根ざした富士見市の公民館・社会教育の営み」と題して

1. 公民館活動の原則
2. 公民館事業の目的と具体的内容
3. 公民館事業の原則
4. コロナ禍に当たっての公民館活動

の講義が行われた

講座のあらまし（テキスト資料の抜粋）

I 玉田氏講座

1. 第一部 総合計画策定に当たって

1. はじめに

2. 総合計画の概要と策定のポイント

- (1) 基本構想 20年後における理想の“未来”を定めたもの
- (2) 基本計画 基本構想の実現に向け、取り組む施策を定めた行政経営の指針となるもの
- (3) 実施計画 基本計画実現のため、社会情勢や財政状況を考慮し、施策の具体的な実施方法を定めたもの。

2. 第二部 富士見市第6次基本構想

1. 理想の未来 「充実した日々」

- (1) 理想の未来とは： 子や孫などの世代へのバトンタッチを意識し、市民がともに目指す20年後の“まち”の将来像を、理想の“未来”として位置づけました

- (2) 充実した日々とは： 楽しい、幸せ、居心地がよいなど、市民の価値観が多様化している現在に於いて充実の定義は様々ですが、誰もが自分らしく、充実した日々を送ることとして、位置づけました 2)

2. 理想の未来の構成要素

(1) 理想の“未来”の3つの視点

1. 実りある暮らし
2. 充されたつながり
3. 恵まれた生活環境

(2) “まち”を押し上げる「成長の継続」

3. 第3部 第一期基本計画

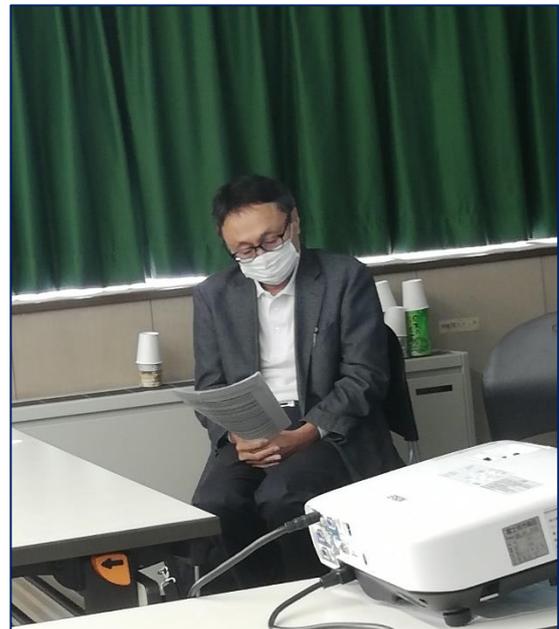
1. 基本計画について： 分野の構成
2. 基本政策一覧： 分野別基本政策

4. 第3次 富士見市生涯学習推進基本計画（令和3年年度から令和7年度）

生涯学習とは

生涯に行うあらゆる学習、すなわち学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な機会や場所に於いて行う学習活動を言います

1. 第3次生涯学習の推進基本計画の位置づけと目標
2. 基本的考え方と基本理念
3. 施策の体型
4. 計画の成果指標
 - 基本目標① 市民の生涯学習を支援します
 - 基本目標② 地域や地域の人材を活かした生涯学習を進めます
 - 基本目標③ 生涯学習を通じた地域コミュニティの活性化を目指します
5. 計画の推進体制



II 富塚氏講座

「地域に根ざした富士見市の公民館・社会教育の営み」と題して

1. 公民館活動の3原則

- ① 生活に潤いを与える学び
- ② 生活を改善していく学び
- ③ 広く社会に目を向けていく学び

2. なぜ公民館（職員）は事業を行うか

- ① 社会教育施設だから
- ② 社会教育法 20 条（目的を）達成するため

3. 富士見市内 4 公民館の事業

- ① 鶴瀬公民館： 全市的事業展開
- ② 南畑公民館： 農のあるまちで町おこし
- ③ 水谷公民館： 人口急増地域における市民協働事業
- ④ 水谷東公民館：水谷東安心安全まちづくり協議会との融合
- ⑤ 各公民館共通事業：子育てサロン、家庭教育支援事業、高齢者学級、
公民館祭り、
公民館だより発行、各種市民活動支援

4. 富士見市公民館運営 4 つの原則

- ① 市民主体の原則
- ② 地域主義の原則
- ③ 教育機関の原則
- ④ 自由な活動の場としての施設提供の原則

5. コロナ禍に当たっての公民館活動

報告 安藤隆一